

上野の 寄り道 散歩道

第8回

「登録有形文化財」

東京藝術大学がある上野は、歴史や伝統と新しい文化が交差するスポットとして、観光に訪れる人も多い。藝大のすぐ近くにも、由緒ある杜寺や老舗、意外なエピソードを秘めた穴場が目白押しだ。大学から少しだけ足を延ばして、小さな旅に出てみよう。



はん亭

1

大正六年（一九一七年）
文京区根津二一十二一五



護国院庫裡

2

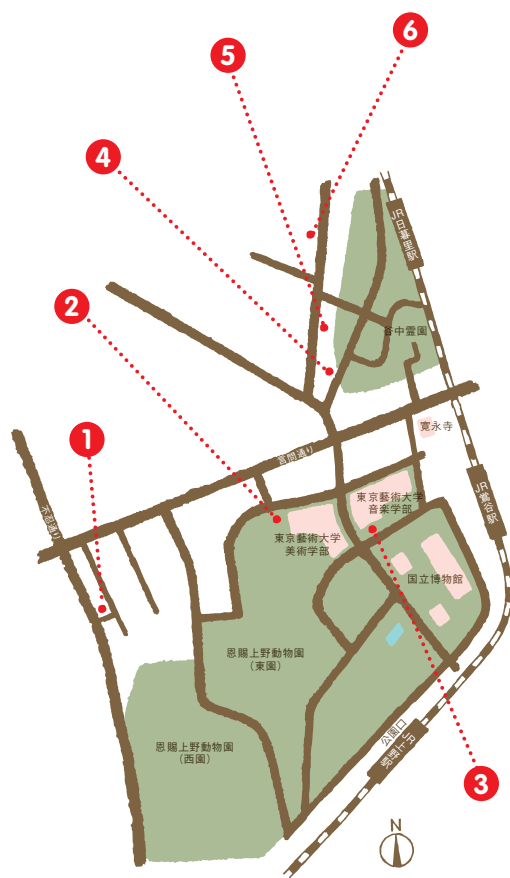
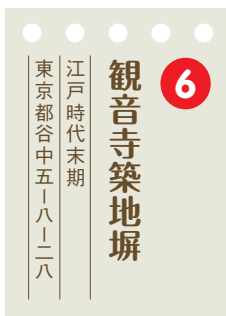
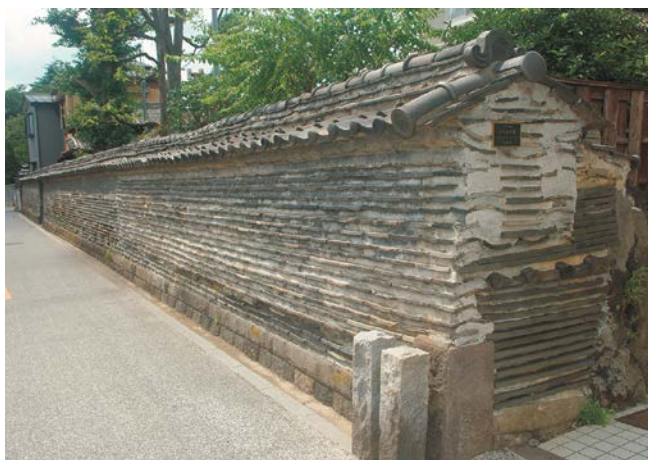
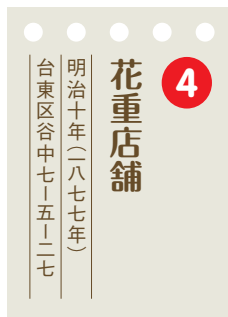
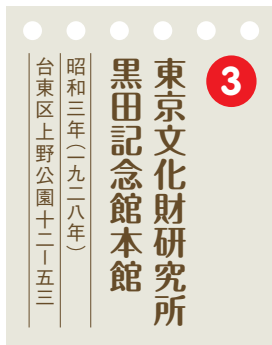
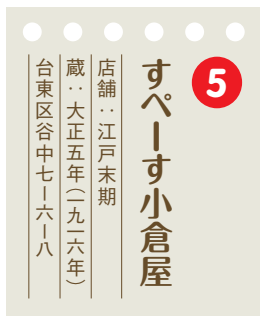
昭和二年（一九二七年）
台東区上野公園十一十八

登録有形文化財は、平成八（一九九六）年の文化財保護法改正により創設された文化財登録制度に基づき、文化財登録原簿に登録された有形文化財のことである。開発などで歴史的資産が消滅するのを防ぐため創設された。建造物では原則建築から五十年を経過し、造形が時代の特色を表現していること、再現が困難なことなどが条件となっている。

文化庁によると、建造物の国登録有形文化財は平成二十五年七月一日現在、九千二百五十件ある。登録対象は当初は建造物にかぎられていたが、平成十六年の文化財保護法改正により建造物以外の有形文化財も登録対象となっている。

東京藝術大学周辺にも、近世近代の上野の歴史を背景にした登録有形文化財の建造物が集まっている。東京メトロ根津駅の駅前、不忍通りと一本東側の小路に挟まれた敷地の小路側角地に建つ串揚げ屋「はん亭」(1)は、根津のランドマークのひとつともいえる建物。同じ高さの木造階を三層に重ねた、特徴的な町家建築である。

美術学部の敷地に隣接する「護国院」の本堂西側に建つ「庫裡」(2)は岡田信一郎の設計



によるもので、昭和初期の住宅建築の風潮をよく伝えるものだといわれる。岡田は東京美術学校・早稲田大学で設計教育に携わったため、旧鳩山一郎邸・旧歌舞伎座などを手がけた。音楽学部の敷地に隣り合う東京文化財研究所「黒田記念館」の本館(3)も同じく、岡田信一郎による。画家黒田清輝の遺言により建設された美術館施設で、二階に展示室が設けられている。外観はスクラッチタイル張り、正背面二階中央にイオニア式列柱六本を配する(耐震工事のため現在休館中)。

谷中墓地の入口にある「花重店舗」(4)は、谷中墓地の開設とほぼ同時期に開業した生花問屋の建物。一階は店舗、二階は三室に区切って畳敷の居室として利用している。三崎坂から日暮里駅方面に抜ける途中にあるのが「すぱーす小倉屋」(5)。店舗部分の、通り庭に面する帳場を現在はギャラリーにしている。三階建の土蔵も狭い通りによく目立つ。

「観音寺」の「築地堀」(6)は、境内の南面を画するいわゆる練り堀で、瓦と粘土を交互に積み重ねてつくられている。江戸有数の寺町であった当時の谷中の面影を伝えてくれる。